

土地連 地料上げ再要求

土地連 地料上げ再要求

土地連によると、12年度の概算要求の軍用地料が本年度比1・1%増と計上されたことについて、浜比嘉土地連会長は「屈辱的な数字だ」と一川氏に伝え、引き上げを要求。一川氏は「沖縄の米軍基地について引き続き協力をお願いした

い」と述べたが、具体的な増額は示さなかった。

県内での防衛相との会談は土地連の要望で実現。浜比嘉会長は「大臣が来県して県民や地権者に20年、土地を貸してほしいという言葉がないと交渉しないと言っていたが、実現した」と

述べ、20年契約の交渉を開始したとの認識を示した。

経済界との会談の出席者

によると、一川氏は「日米で決めたことを着実に実行に移したい」などと述べ、米

軍普天間飛行場を名護市辺野古へ移設する日米合意を推進する姿勢を強調した。

出席者からは「法律を変えてまで辺野古移設を強行しないように」と、知事が辺

野古移設で埋め立てを許可しなかった場合の国の対応にくぎを刺す意見が上がった。また「辺野古移設は簡

単にはいかない」「日米で決めたからといって、それを押し付けるのは難しい。別のアプローチが必要」などの意見が出たという。

経済界からは、県経済団体会議議長で県商工会議所連合会の国場幸一会長、県経営者協会の知念栄治会長や県工業連合会の湧川昌秀会長らが出席した。

防衛相、土地連に要請 基地提供 地主側「地料倍に」

防衛相、土地連に要請

基地提供 地主側「地料倍に」

一川保夫防衛相が16日夕、自衛隊機で就任後初めて沖縄入りし、那覇市内のホテルで県軍用地等地主会連合会（土地連）の浜比嘉勇会長や、県経済界の代表者らと相次いで面談した。土地連との会合で一川防衛相は、米軍基地の安定的な提供について「ぜひ協力してほしい」と要請。浜比嘉会長は、土地連の倍額要求に対し概算要求段階で前年度比1・1%増（927億円）だった軍用地料を「屈辱的」とした上で、このままでは契約延長に応じられないとの姿勢を示した。

防衛相が来県し地権者側と面談するのは異例だが、土地連は軍用地賃貸契約の延長・軍用地料改定の本格的な交渉に入る前提として国側に要求していた。土地連の倍額要求に対し、防衛相は具体的な回答は避けつつ「事務方と相談しつつできるだけ地権者の意に沿うよう汗をかきたい」と応じたという。

同日夜の県経済界代表との懇談には、沖縄経済団体会議の國場幸一議長ら5人が出席。

出席者によると、一川防衛相は米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設について「日米間の合意なので推進したい」としたがそれ以上の具体的な方針説明はなかったという。防衛相はまた、沖縄振興予算の一括交付金化について協力したいと述べた。

一川防衛相は17日には仲井真弘多知事や稲嶺進名護市長らと会談、辺野古移設について理解を求めるほか、移設予定地のキャンプ・シュワブなどを視察する予定。